

2019年度 関西大学 研修員

研究支援・社会連携グループ

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究内容の概要	備考
法	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	教授	久保宏之	2019.4.1 ～ 2019.9.20	1.関西大学。京都大学、神戸大学、大阪大学、東京大学 2.ワシントン大学ロースクール(アメリカ) 3.パリ第2大学(フランス)	改正債権法の英文概説原稿の執筆	
文	春学期2名 秋学期1名 または 春学期1名 秋学期2名 の3名以内	教授	佐藤 裕子	2019.4.1 ～ 2019.9.20	1.神奈川県近代美術館及び国立国会図書館 2.広島大学図書館 3.関西大学図書館 4.ハインリッヒ・ツィレ記念館、ベルリン州立図書館(ベルリン) ハインリッヒ・ツィレ協会、ミューヘン州立図書館(ベルリン)	ハインリッヒ・ツィレはドイツにおいて19世紀末から20世紀初頭にかけて大衆に圧倒的に人気を誇った風刺画家である。19世紀中葉まで大衆文化において主流であったビーダーマイヤー的世界観とはまったく逆に位置する彼の作品世界が、どのように大衆に受容され理解されていたのか、またツィレ作品が内包する攻撃性がドイツの風刺画の潮流においてどのような位置を占めるのか、“Fliegende Blatter”、“Simplicissimus”などに掲載された風刺画を分析し、検証する。	
経済	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	該当者なし					
商	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	教授	齊野 純子	2019.4.1 ～ 2019.9.20	1.関西大学 個人研究室 2.愛知学院大学 3.IASB(国際会計基準審議会)(ロンドン)	IFRS(国際財務報告基準)の基本思考の解明をテーマとした研究を行う。 関西大学を研究場所とし、必要に応じて、イギリスにて情報収集を行う。 研究期間中、所属する研究会または学会にて研究の進捗状況を報告する。	
		准教授	岡本 真由美	2019.9.21 ～ 2020.3.31	1.名古屋外国語大学 2.株式会社大修館書店 3.京都大学人間環境学研究所 4.関西大学 個人研究室	主な研修内容は以下の2つである。 1.ビジネスコミュニケーションにおける言語と心的態度の関連性を調査するため、ビデオ撮影、インタビュー、アンケートなどによってデータを収集し、分析を行う。 2.ビジネスコミュニケーションに関する文献調査をおこない、複数の研究上の枠組みを取り上げ、これまで収集したデータと共に纏める。	
社会	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	教授	熊野 建	2019.4.1 ～ 2019.9.20	1.関西大学 個人研究室	フィリピン共和国イフガオにおける研究調査等で得た資料整理(映像資料含む) ・英語・日本語文献資料の再吟味、フィールドノートとの整合性を図る。 ・映像資料のDVD化等を含む。 主に個人研究室を中心に本覚図書館、自宅を含め展開するが、資料の再取得などで国立民族学博物館を初め近隣の大学図書館などを利用する予定である。	
政策 創造	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内	該当なし					
外国語	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内	該当なし					

※ 規程 第3条第1項による在職年数(2019年4月1日現在)に抵触するものではありません。

2019年度 関西大学 研修員

研究支援・社会連携グループ

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究内容の概要	備考
人間健康	春学期1名または秋学期1名の1名以内	該当者なし					
総合情報	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	教授	米澤 朋子	2019.4.1 ～ 2019.9.20	1.名古屋大学情報科学研究科 間瀬研究室 2.University of British Columbia	ぬいぐるみロボットインタフェース研究の展開、および、ロボット内部意識のシミュレーション高度化。 音響インタラクションシステムの研究	
社会安全	春学期1名または秋学期1名の1名以内	該当者なし					
システム理工	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	該当者なし					
環境都市	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	該当者なし					
化学生命	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	該当者なし					
法務	春学期1名または秋学期1名の1名以内	教授	川口 美貴	2019.9.21 ～ 2020.3.31	1.Universit de Bordeaux 他(フランス) 2.国立国会図書館、最高裁判所図書館、法務図書館 他 3.Centre de droit compare du travail et de la securite sociale,Universite de la Nouvelle-Caledonie (フランス)	労働形態の多様化、労働力の利用形態の多様化、労働者層の多様化、労働組合の組織形態・規模・当該企業における組織率等の多様化、労働組合の団結活動・争議行為の多様化等、集团的労使関係の基盤となる労働関係の変容・多様化が、集团的労使関係法理に提起する、集团的労使関係の主体(当事者)に関する概念、団結体・労働組合の権限と代表性、団結権・団体交渉権・団体行動権保障の範囲等、集团的労使関係法理の根幹に関わる課題・論点につき、日仏比較法的な観点も含め、検討・研究・調査を行う。	
会計	春学期1名または秋学期1名の1名以内	教授	富田 知嗣	2019.9.21 ～ 2020.3.31	1.関西大学 個人研究室	これまでの研究成果を見直し、整理した上で体系的に再構築する。この作業により、全体を俯瞰する理論を構築し、追加的に検証が必要な点や検討・考察が必要な点を明確にする。最終的には、研究成果として、編纂もしくは、編纂する準備を完了する。	
心理	春学期1名または秋学期1名の1名以内	該当者なし					
教育推進部	春学期1名または秋学期1名の1名以内	該当者なし					
国際部		該当者なし					

※ 規程 第3条第1項による在職年数(2019年4月1日現在)に抵触するものではありません。